

「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(習い事は除く)」

これは、全国の小学6年生・中学3年生を対象に実施された、令和7年全国学力学習状況調査の質問です。今年から新たに「授業」という表現が加わりました。

現在、美濃地区の学校では、様々な地域連携による取組が実践され、土日以外の平日の授業でも子どもたちが地域の大人から学ぶ機会が増えています。子どもの成長にとって、地域が積極的に関わる意味は大きく、その重要性を強く感じます。

今回は、地域の公民館と学校との連携により実現した2つの実践をご紹介します。

藍見地区青少年を守る会と藍見小学校の連携による

『情報モラル教室・講座』

現在、子どもたちの放課後や休日の過ごし方が変化する中、スマートフォンやSNSの利用による様々な事件・事故が社会問題となっています。

美濃市の藍見地区青少年を守る会では、地元の児童らがこのようなトラブルや被害に巻き込まれる前に、子どもも大人も一緒になって考えたいとの思いから開催されました。

【「情報モラル教室・講座」の内容】

6月26日(木) 小学児童・保護者対象講座①「あなた・自分と仲間を守れますか」

保護者・地域の大人向け講座②「子供たちの今を知り、寄り添う大人に」

講師：情報モラル教育研究所代表 上水流 信秀 氏

大中小学校「おおなかよし DAY」

5年生『公民館活動について考えよう』

郡上市の大中小学校では、6月20日(金)のフリー参観日に、全学級で地域や行政、総勢16名の方の地域講師による授業が行われました。5年生の教室では、学校運営協議会委員の尾藤公民館長が「公民館の



役割」について説明後、様々な質問を児童に投げかけ、一人ひとりがじっくり考える形で行われました。

児童らは、自らが企画・運営を行う「大中夏祭り(7月、公民館にて実施)」の開催に向け、「自分たちができることはどんなことだろう」と様々なアイデアを出し合い、話し合いました。

【5年生の感想(授業後の振り返りより)】

・公民館は地域の人が集まってイベントをする場所だと思っていたけど、地域の人と協力して仲良くなったり、学校では学べないことを学んだりすることを知って、自分たちを支えてくれる場所だと思いました。

《 地域が変わる 》

～人口減少時代をどう生き抜くかを考える取組を紹介します～

40年前から続く「板取あじさいまつり」

～あじさい村の村長さんは関市立板取小学校の児童ら～

「あじさいの村」として有名な板取地区。毎年開催される「板取あじさいまつり」の村長には、板取小学校の6年生児童が任命されています。

子どもたちは、新聞社やケーブルテレビを訪問し、あじさいの見頃に合わせて開村する「あじさい村」をPRしました。

6月28日（土）に開催された「あじさい村フェスティバル」のオープニングセレモニーでは、村長一人ひとりが期間中に是非訪れてほしい「板取の魅力」を発表しました。

板取小学校は、来年4月に隣接する洞戸小学校と統合されますが、「今後は、洞戸地区・板取地区それぞれで育った子どもたちが互いの地区の魅力を伝えあい、40年続く『板取あじさいまつり』も守っていけるよう持続可能な取組を模索していきたい」という関係者の言葉が印象的でした。



研修会のお知らせ(県内の地域学校協働活動に関わる内容について)

- ・美濃地区社会教育研修会(8月22日13:30～16:30)

中濃総合庁舎5階 大会議室(オンライン参加も可)

テーマ:つなげよう!地域と子ども～持続可能な地域づくり～

実践発表 ①岐阜県立武義高等学校 ②郡上市高鷺町学校運営協議会

- ・岐阜県地域学校協働活動フォーラム(9月16日13:30～16:30オンライン)

講演:子どもたちの未来のために、今、私たちにできること～学校と地域の連携・協働を本物に～

講師:文部科学省 CS マイスター 四柳千夏子氏

実践発表 下呂市立下呂小中学校 学校運営協議会

取材依頼等のご連絡お待ちしております!

- ・地域学校協働活動に関する様々な取材を行っております。「こんな取組がありますよ」「ぜひ学校、地域を紹介してください」など、下記担当者まで、お気軽にお問合せください。

日程等を調整後、取材をさせていただき、社会通信「つなぐ」へ掲載させていただきます。

問合せ先:中濃県事務所 振興防災課 社会教育担当(片桐紀子)

美濃市生櫛1612-2 中濃総合庁舎4階 TEL 0575-33-4011(内線 208)。